



西幼だより

生活発表会特別号

令和8年2月12日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく



ブログも見てね！

(西幼稚園 HP)

子どもたちとともに織りなす毎日

園長 渡邊 舞

1月、南極の氷に出会ったことがきっかけとなり、子どもたちは遠い南極の地に関心をもつようになりました。その姿を受け、担任がいくつか南極に関する絵本を保育室に出しておいたところ、早速手にとって見入る姿がありました。そこには、あたり一面の氷の世界にペンギンがたくさんいる場面もあります。また、きれいな色のオーロラを紹介するページもありました。すると、「オーロラって」「え？ オーロラって何？」と友達と会話しながら、もっと知りたいという好奇心が膨らんでいきました。その声を聴き、担任たちはこれまで楽しんできた懐中電灯をオーロラのような色になるよう、きれいなセロファン紙を当て、天井に映し出しました。子どもたちはそれを見てすっかり南極の気分。オーロラの下の氷のお家でペンギンになって遊びだしたのです。この頃から、猫や牛になって遊ぶお友達もいて、西幼稚園の南極の世界がどんどん楽しくなっていました。ちょうどこのころ、園庭にはとても厚い氷が張り、恐る恐る乗ったり、割れた氷をみんなで一緒に運んだりしていました。ペンギンの気分を味わうかのように氷の上で寝転ぶお友達もいました。南極、オーロラ、氷、ペンギン…これらは、次第に子どもたちの遊びの中に欠かせないキーワードとなって、表現遊びにつながっていました。子どもたち一人一人のこれまで楽しんできしたこと、得意なこと、経験してきたこと、つまり、幼稚園の生活そのものを土台にしながら日々表現(子どもたちから出た言葉で言う)「おしゃべい」を楽しむ毎日が続きました。

今年度、西幼稚園では『人、もの、ことに主体的にかかわり「もっと〇〇したい」と思いを広げ遊び込む子どもの育成』を目指してきました。その重点目標を支える3つの柱として①好奇心・探究心(人・もの・ことに主体的に意欲的にかかわる)②思考力(思いを広げ、考えをめぐらせながら遊ぶ)③自他尊重の意識(自分・友達を大切な存在と感じ、共に育つ)を日々育ててきました。今年度は子どもの主体性を教職員も主体となって支え、異年齢での生活の充実を図っていました。その中で、年齢や発達が違う子どもたちは、お互いに上の①～③の力を付けながら、育ち合ってきました。年齢や発達が違うからこそ、偶発的にうまれる楽しさや発見があったり、思ひがけない喜びや驚きもったりしました。子どもたちとともに紡ぎ、織り成す毎日の生活は、一枚の布が織り上げられていく様のようです。そこには、12人だからこそのうまれる色があります。

明日は生活発表会です。一人一人の経験してきたこと、今までに興味をもっていることなど、幼稚園の生活そのものをご覧いただく日です。「発表会」と言っても決して派手ではありません。昨日から今日、今日から明日と続く幼稚園の生活の一部を見ていただく会です。12人一人一人の色を引き出し、明日も子どもたちとともに織り成す楽しい会にしたいと思います。私たちもどんな色になるか、とても楽しみです。みなさんもワクワクしながらご覧いただきたいと思います。



光と影と…



～表現遊びまでの軌跡～



南極の氷との出会い



西幼稚園の氷との出会い

